

第4章 地域と災害



本章は、平成 27 年以降の 10 年の地域の様子、変化をテーマにした自治会長（令和 6 年 12 月当時）への合同インタビューをまとめたものである。インタビューは同じ内容で 3 日間行い、都合のつく回に参加いただく形とし、多くの自治会長にお集まりいただいた。

各回、冒頭に福島義人実行委員長から「この記念誌は前回の 50 周年記念誌からの 10 年を振り返るものですが、やはり台風、コロナ災害が印象深く残っています。そこで、地域にそれらの災害がどのように影響したかなどについて、ぜひ地域の声を聴きたいと、各自治会長さんにお声掛けいたしました。もちろんだいぶ時間も経ち、思い出せない点もあると思いますが、記憶の範囲でかまいませんので地域の様子を、また、台風、コロナ以外にも、ここ 10 年での地域の移り変わりなども教えていただければと思います」との趣旨説明の下、地域の変化とこれからの地域のあり方について貴重なお話を伺うことができた。

本章の構成は、インタビューの内容を回ごとに節にしたものである。いずれも、今後の地域づくりの大きな示唆となるものである。

第1節 インタビュー第1回目

日 時 令和6年12月3日 10:00～12:00

参加者 田中 春夫さん（大和田自治会長） 小堀 昭夫さん（郡自治会長）
戸倉 健一さん（小香自治会長） 田村 正さん（中富自治会長）

記念誌部会 福島 義人（部会長） 齋藤 みどり（副部会長） 小林 一臣（記録）
公民館 布施 利之 矢島 堯

（1）自己紹介

矢島：君津中央公民館の矢島です。5年前に子どもが生まれたのをきっかけに君津にきました。縁あって記録誌でこのまちを調べることに携わり、いろいろ教えていただきたいと思います。進行を務めますのでよろしくお願いします。

福島：台風の時、私は周西南中学校区の学校運営協議会の委員で、学校から倒木が山積みで困っていると声がありました。地域のある方に話したらすぐいろんな機械を持ってきて、処理してくれました。すっかり綺麗になりましたよ。コロナ禍では、私も色々な役職を担っていましたが、どうしても事業ができず非常に残念でした。



齋藤：副部会長の齋藤です。記念誌は44周年、50周年と担当し、この60周年で3冊目になります。台風の印象と言えば、台風15号の時、子どもと携帯が繋がらず「お母さんもスマホにきなさい」と言われてスマホになったことです。「記憶を記録に」と考えています。今日は板書での記録係をさせていただきます。また、本日同席していませんが、同じ編集部で貞元地区にお住いの小林一臣さんが、今日の録音を下に記録の文字入力をしてくださいます。よろしくお願いします。



布施：貞元地区は20年位前にお世話になりました。台風の時、私も市役所に連続ではありませんが6泊したのを覚えています。

田中：50年近く勤めた会社を退職し、名古屋から君津に戻ってすぐ自治会の班長や副会長を頼まれ、とうとう自治会長になってしまいました。民生委員もあり、忙しいですが勉強になっています。よろしくお願いします。



戸倉：10年を振り返ると台風とコロナが一番大きいと思います。小香は戸数17の自治会で、市内では1番か2番目に小さいと思います。自治会で一番感じたことは、ご近所同士の付き合い、日頃の付き合いの大切さですね。特に災害や台風ときにはご近所にお世話になったのでその大切さを痛感しています。

小堀：この10年は台風とコロナが社会的に印象があることですが、私としては10年前、癌になりました。5年間の治療で克服し、自分の生き方を変えた気がします。それがこの10年の一番印象に残っていることです。





田村：42～3 年勤めた会社を退職し、中富生産組合で農業生活に入りました。田植え作業が始まる前、ハウスで苗の水撒きをしている最中に、急に肺が破裂するという事件があって、入院騒ぎになってしまいました。それから無理をしない生活というのを気にしながら、この9カ月間、百姓をしています。

（2）台風の被害について

矢島：まず、台風の被害状況はいかがでしたか。

田中：大きな被害はなかったと思います。例えば自分の家の瓦が1枚位飛んでいた位でしょうか。あとは近所をちょっと見まわしても、瓦が浮いたり、1～2枚飛んでいる程度で、鋸南町程の大規模な被害はありませんでした。

矢島：私の記憶だと、養生テープが窓に張られていたのが印象的でした。最初の台風のときはそんなことはなかったように思いますが、2回目の台風のときは養生テープが手に入らなかったような気がします。



田中：テープは貼りました。特に北側の窓は全部貼りました。

戸倉：屋根の瓦が2～3枚ずれたとか。うちの方は農家が多いもので、ビニールハウスが潰れちゃったよ、とかありましたね。ペしゃんこになってました。また、瓦が飛んだところの補修に、市役所にブルーシートを貰いに行きました。土嚢袋も支給されたので取りに行きました。

小堀：郡地区は特になかったと思います、瓦が何ヶ所か剥がれた程度でした。倒木はありましたね。寺の樹が上だけ折れて、電線にはぶつからず敷地内でした。杉の木が多く倒れ、自治会の皆さんに協力してもらい、皆で2日位費やして片づけました。あとは新御堂地区で電柱が傾いていましたね。

田村：家の玄関のガラスが突風で割れて、最初は段ボールで押さえて、最後は布団のシーツを釘で打ちつけました。夜中に2～3時間格闘しました。自分の家も瓦が飛びました。地域に大きな被害はなかったと思いますが、ブルーシートを屋根に覆う家は何軒かありました。小糸の親戚の様子を車で見に行っただけですけども、大通りの電柱が軒並み傾いていたのが印象的でした。

矢島：停電の状況はいかがでしたか。

田中：丸1日は停電しなかったと思います。停電は場所によって違ったかな。

戸倉：停電は3日位でした。電気が無いと水も使えず、井戸もくみ上げるポンプが使えなくて、生活が動かなくなっちゃいました。近所の発電機を持っている人から時間で使わせてもらって水を確保しました。その後、私も発電機を購入しましたが大きな停電はありませんので、今のところ使う頻度が低いです。

小堀：新御堂で電柱が傾き、郡は1週間位停電しました。それ以上のところも多分あったと思います。郡ダムに向かう県道を境に右と左で停電の有無が明確にあるんですね。停電してる人たちはショックで、隣では電気を使ってるのに、こっちは真っ暗になっていて。それをとてもよく覚えています。

田村：中富の停電はその日だけでした。それよりも信号が機能せず、車の運転に神経を使いました。皆さんも慎重に運転していたため、大きな事故はなかったようですが。台風が去った3日後に出社した帰り、夜8時頃、トンネルを抜けても久保、中野あたりの真っ暗な光景が異様だった記憶があります。

田中：大和田はなかったと思います。少なくとも我が家はありませんでした。

戸倉：うちは電気が止まったんで、断水が3日ぐらい、もっとかかったかな。その間、ご近所に発電機と井戸があって、「水汲めっからもらいにきな」って言ってもらい助かりました。日頃のお付き合いが大事だなんて感じました。

小堀：うちは影響なかったと思います。やっぱり場所によってなんですかね。

田村：うちも断水した記憶はありませんね。

矢島：その他に印象的な出来事がありますか？

田中：東電が木更津イオンにテントを張って拠点とし、全国から作業員を招集し、電源復旧に当たってました。自衛隊も来てました。ある人から「九州は災害ボランティア受け入れが多く、君津に恩返しでたくさん来てくれた。ただ、ボランティアの交通整理やダンプの人に文句を言った人もいたようで、あとで謝罪したようだが、君津はボランティア慣れしていない。今回その意識も変わったのでは」といった話を聞きました。

戸倉：最近は災害警報がバンバン出ますが、小香地区は高齢者が多いので避難するのに課題があります。山を背負っているので心配しています。

小堀：やっぱり停電ですね。一週間なんて経験ないですからね。こんな話もなんですが、ペットでメダカを買っていて、水を循環させるモーターが使えなかったんです。それでメダカが死んでしまって。それも一番困ったことですね。

戸倉：そういえば、電気が止まり、9月で暑かったため、冷蔵庫内の食品の処理に困りましたね。

田村：さっきも触れましたが、信号が消えていたり、車を慎重に運転したりというのがすごく印象に残っていますね。

布施：仕事の関係やご近所で断水・停電などで困ったことはありますか？

田中：近所で家を建て替えしていた人が、台風の影響で工事が延びたという事例がありました。



田中：私の息子が八王子にいて、そこに避難しました。実はこのときラグビーのワールドカップの日でそれが見たくて。他市のご家族の家へ避難された方も結構いたそうですよ。

(3) コロナ禍の影響について

矢島：新型コロナウイルスの影響はいかがでしょう。

田中：令和2年から令和4年まで市の指導に沿い、人が集まる機会を全てやめまして、理事会も総会も書面にして集まりは一切なかったですね。回覧板配るぐらいですかね。令和5年に、盆踊りが4年ぶりに復活しました。

矢島：コロナの前と後では、変化みたいなものは感じられますか。

田中：シニアクラブの健康体操は100人以上集まりますが、未だにマスクをつけて予防してますよね。いろんな会議もマスクつけている人が多いです。盆踊りが復活したら喜びましたね。3～4年やってなかったんで、今年はお子さん含め200人ぐらい集まってね。普段ね、踊りなんてっていう人も結構いたんですけど、やっぱり復活すると地域の人 comes ね。

戸倉：毎月定例会をしていますが、コロナの最初の3ヶ月位は連絡事項だけで、その後徐々に以前の形に戻ったんですけど、新年会とか忘年会とかは今年の春ぐらいからで、それまで自粛でした。一番変わったのは葬儀です。前は組内が総出で手伝いましたがコロナ中は業者が行い、簡単になっていきましたね。

矢島：父がその時期に亡くなり、亡くなる前入院してたんですけど、病院にも入れない、見舞いにも行けない、そしてそのまま亡くなってしまいました。本人にも会えず、その葬式に人も呼べませんでした。

小堀：一部の自粛はあったんですが、郡は会議はほとんどしてました。換気マスク、3密に注意して。でも懇親会は一切しませんでした。お祭りも毎年子ども太鼓、子ども神輿を出車で回りますが、皆さんが「お花」のご祝儀をくれるんで、お礼など出すくじ引きを集まってやっていたんですが、集まらなくて良いように、くじ引きだけして後から自宅まで配達といった工夫をしました。

田村：中富のお祭は毎年10月上旬ですが、令和2年から4年まで中止で、令和元年も台風で結局4年間できませんでした。その間、祭りの準備の仕方もうまいになり、大変苦労しました。御輿の飾りつけをしてくれる長老達が少なくなってしまうことになってしまったんです。大和田で祭りの復活のお話がありましたが、うちは逆に気力が薄れてしまったことを、ここ1年で感じています。

布施：長老がいなくなったとは、お亡くなりになったんでしょうか。

田村：お亡くなりになったり、寝込んだりしてしまったんです。みんなで集まって準備をするときも記憶もうまいで、4年間のブランクでなかなか進まなくなってしまって。今までは旗振り役として長老がまとめてくれたんですけどね。

布施：長期間の中止で先輩たちからの伝承が途絶えた、あるいは復活したけど大きく変わってしまったといった行事はありますか。

田村：復活したけどちょっと元気がないっていうのは事実なんです。神輿も担いでくれる人が少なくなってきたことがここ数年あって、そこにコロナでストーンと落ちてしまったイメージですね。企業のお手伝いの協力もあって、その力も期待しながら神輿をやったんですけど、無理をして行う必要もないんじゃないかという声もあり、なかなか難しいですね。

布施：お祭り以外でも、例えば自治会の会合のスタイルが変わったとか、ご近所付き合いに少し変化を感じるようなことはありますか。

小堀：そういうことはあまりないですね。自粛だけど、「やれるところはやっちゃおう。止めてしまうとその後が億劫になる」そんな感じでやってましたね。



布施：当時世の中が閉ざされていく風潮があった中でも、郡は工夫をしながら取り組まれていたとのことですが、その気力はどこから出たんでしょうね。

小堀：上に立つ人が考えをみんなに示すことが大きいですかね。そのままやらないのは誰でもきるし、やらなくて済むのは楽なんだろうけど、やれるうちはやろうという上の人の考えが大きかったですね。

田中：盆踊りの櫓は何とか組めるけど、提灯張りは地元の電気屋が店閉めたのでイベント屋に頼みました。指導してくれる大工さんも高齢で、若い人が減ると櫓も頼むことになるかなと思います。人見神社の祭りも担ぎ手がなくて企業の社員が協力してくれてます。外人さんも担いでくれ、そういう時代になった。近隣の坂田さんとかも案内を出してくれ、担ぎたい人を集めてくれてますが、地元がほとんどいないです。

（４）防災について

矢島：防災の取り組みで、現在実施している取り組みはいかがでしょうか。

田中：去年は防犯・防災の講習会を行い、今年は防災体験と煙体験を実施しました。黄色いタオルを出す「無事ですタオル」も配布してます。ただ、タオルが出ていないところは人がいないと伝えることになってしまうので『あれは考え物だよ』っていう話も聞きました。そのあたりは良し悪しですね。

戸倉：年１回自主防災訓練を自治会役員で行っています。消防関係の収納庫の中にある物品の点検ぐらいで、自主防災は自治会としてこれといった取り組みはありませんが、発電機をみんなに伝えるようにしています。高齢者も多いため、連絡を密にとるようにしています。

小堀：郡は年に１回やってるんですけど、自主防災訓練というのを自治会役員でやることになっています。内容というのは消防関係がメインですけど、自主防災の倉庫がありまして、そのホースやポンプの点検ですね。

田村：地区に消火栓格納庫が１０か所あります。昨年、１軒全焼火災がありました。今、自治会長の身で火災が起きたら不安ですね。深刻なのは、草刈りをしていない土地が多いことです。昨年まで環境保全組合が草刈りをしてくれましたが、組織が無くなり今は自治会がしています。完全ではないので火災が起きやすく、不審者の隠れ場にもなり、以前住民から不審者情報を聞いたときにそのことを強く感じました。

（５）その他 10 年間の地域の変化

矢島：台風やコロナ以外にも地域の変化などはいかがでしょう。

田中：公園などの公共用地や他の空き地をお借りしてリサイクルゴミ置き場を自治会で管理しているところが２０数か所あります。最近地主さんが土地を売るのが増え、今年だけで２か所ぐらい変更したんですけど、変更先の場所がないんですよ。みんな嫌がりますから。結局、公園にしかステーションが作れず、今後そう

いうことが増えたときに、ステーションの設置が非常に難しくなるなって感じます。

戸倉：イノシシの被害が問題でね、10年前、国の補助を得て防護柵を張りましたが、張った後の維持管理が大変です。2か月に1回の点検やイノシシに開けられた柵の補修などやることがたくさんあります。イノシシは柵を開けて入り、いたちごっこです。民家まで下りてきている状態で困ってます。

小堀：いのししは同様です。あと異常な暑さですね。お祭りが中止になったとかありますが、熱中症を簡単に考えていましたが、今の若い人たちは体質的に暑いのに合わないのかなとか感じます。不思議と年寄りってあんまり熱中症になった人がいないんですよ、若い人が熱中症になっている気がします。

田村：この10年若い人の価値観が大きく変わってる感じですね。例えば家を継ぐという考えが無いのが主流になってます。中富はハザードマップで洪水の地区になっていますが、これが原因かは別として、若い人が地区から出て若い人が家を継いでいるところは数軒しかなく、10~20年後の不安があります。

戸倉：私たちの代までは家を継ぐのは当たり前という意識でありました。ところが私たちの子どもの代になると、家を出ていき、市外にマイホームを建て、「田舎には住みたくない」というパターンが多い気がします。

布施：大変な10年の中でもいろんな工夫もあり、今日お集まりの区長さんたちが「これからが心配」というのは、逆に、「これから」を考えてくださる方がこんなにいるということとも思います。これからに向けて、世の中大変ではありますが、「自分たちでこうしていきたい」と頑張ってる点などはいかがですか。

田中：独居老人が非常に増えてますから、高齢者同士の助け合いが必要って感じます。若い人は仕事で大変なので、頑張って仕事していただき、元気な高齢者は元氣じゃない高齢者を助ける時代になるんじゃないかなと思います。私も自治会や民生委員で初めていろんなことを知ったんですけど、高齢者同士の助け合いが地域の安全や安心に結びついていくんじゃないかなと思います。

戸倉：若い人がいないので、近所同士の助け合いや、地域のつながりを重視していく必要があると思います。

小堀：郡は旧郡と新郡みたいな形でわかれているように感じていて、自治会を運営しているのはほとんど旧郡の人たちです。新しい人たちはその中で班長とかに関わってくれますが、その中から新しい役や自治会長やる人たちはまだ見当たらないです。新しい人たちとのつながりや新住民と旧住民のバランスを考え、誰でも参加出来るような自治会にしていければなと思っています。

田村：規模は小さいんですけど同じ状況で、15軒の新しい分譲地ができ、10軒ぐらい新しい方がきました。その中で自治会に入ってくれたのが4軒です。自治会に入ってくれている人達と入っていない人達が同じ所にいる中でどうやって融和していけるかが課題だと思います。新しい人たちが地区内に入ってくれば過疎化も防げると思うんですけども、その課題を解決していければなと思います。

福島：本当に貴重なお話をありがとうございます。私も、自治会長から地区社協の会長、生活支援コーディネーターといろんなことをやってきまして、やっぱり高

齢化が問題だと思います。若い世代にどんどん出てきて一緒にやれよという形は厳しいように感じます。今後、高齢者同士がつながりを持つことが非常に大切じゃないでしょうか。自助はもちろんですが共助がとても課題になっていると思います。皆さんありがとうございました。

第2節 インタビュー第2回目

日 時 令和6年12月5日 10:00～12:00

参加者 刈込 徹さん（久保自治会長） 飯嶋 四郎さん（杉谷自治会長）

記念誌部会 福島 義人（部会長） 増田 久美子（記録） 佐々木 睦（記録）

公民館 矢島 堯

（1）自己紹介



増田：陽光台の増田です。台風の時自治会の班長で、断水、停電、倒木など班の被害を確認しに行ったり、生存確認みたいなことをしたりという記憶があります。見える被害もそうですが、精神的にダメージを受けた方のフォローも必要だと感じたことをすごく覚えています。コロナは「この世の中でこんなことがあるんだ」ととても衝撃的に記憶しています。

佐々木：陽光台の佐々木睦です。公民館でスマホやパソコンをボランティアで教えている関係で公民館運営審議会委員をしています。陽光台は山の上で風が強く、瓦やいろんなものが飛んできてゴミだらけになりました。車のガラスに傷がつきキラキラ星のようになってました。隣の君津台は停電や断水は早く復旧したのに、陽光台は断水も長く、山の上で水圧が上がらないんですよ。



刈込：久保自治会の刈込です。令和元年の台風では、被害状況を調べるため自転車で3日間地域を回ったんですが、日を追うごとに細かい被害が見えてきました。そのとき自身が想定している災害だったら、被害はどんな形になっていたんだろうと考えました。

飯嶋：杉谷自治会長の飯嶋です。コロナでは、建物の中での会合、行事は全部中止になりました。外での作業も短時間、必要最小限でやりました。台風は、聞いた状況として、私の家もそうですが、屋根瓦の一部や 雨戸のサッシ、玄関が飛ばされた家もありました。人的被害がなかったことが幸いです。杉谷は停電が1週間ぐらい続いて本当に困りました。断水はなかったと思います。コンビニも停電で買い物も不便でした。



（2）台風の被害について

矢島：台風による家屋の被害状況について伺います。

刈込：この10年は特にいろいろ起きて、台風・コロナなど単なる10年ではなく印象深い時期だと思います。その重みがわかる記念誌にさせていただきたいと思います。今年で、自治会長になってから6年目になります。大変ですが地域の方々とつながりが持てたことは自分の宝であり、ありがたいと思っています。

矢島：令和元年の台風について、家屋の被害状況などはいかがでしたか。

刈込：久保地区では瓦や棟の一部が壊れたほか、居酒屋さんが3軒連なった建物の屋根が全部飛んだところがありました。建物が古かったせいもあるかもしれませんが、ビル風のようなものが吹いた影響もあったと思いますね。

飯嶋：うちの方も人が住んでいない家が結構あって、将来的に気温が高くなってるからどんどん風が強くなって同じようなことが起きるのかな。

刈込：沖縄や九州は、毎年台風が来ますからそれなりの対策は取ってますよね。でも、こちらは災害という災害がない所のため、その意識が低かったせいもあったのかなと思いました。自宅も数十メートル離れた所から飛んできた物で瓦の端が壊れたため、これを機に瓦を下ろし外壁や耐震工事を施しました。

飯嶋：うちの方も、瓦やトタンの外壁が飛ばされた家、雨戸、サッシ、玄関の窓が壊れた家があります。

佐々木：九州、沖縄だとこの位の台風だと木が倒れたりはしないんですけど、この辺は山の鉄道が崩れたり木が風に弱いような気がするんですね。

刈込：台風が上陸しているときに外に出てみたら竜巻のような風が舞っているのが見えたんですよ。びっくりしました。そういうのが被害を大きくしたんだと思いますね。

矢島：停電はいかがでしたか。

刈込：停電は翌日には市役所・警察署の並びは復旧しました、早かったですね。夜照明が煌々としてて腹が立ちましたけど(笑)。3～4日後には復旧しました。シャワーも水のまま浴びられる気温でしたので助かりました。そのあと急に寒くなりましたからね。

飯嶋：クーラーが使えず参りました。杉谷は17軒で停電は1週間ぐらいです。高齢者施設で1人熱中症で亡くなり、大きな発電機が来てクーラーを入れてました。電柱が1本倒れ杉谷と新御堂の停電が多分長かった。電柱の写真がこれです。復旧までとにかく暑くて寝られませんでした。ただ、水は使えたんですね。

刈込：停電のとき自転車で回りながら、会った方には「ブレーカーを落としておくよう」伝えました。「通電火災」が怖いからです。隣近所にも伝えていただくようお願いしました。

矢島：断水はどうでしたか。

刈込：断水は北久保でありました。浄水場のポンプが壊れたと聞きました。給水車も出ました。このとき、ペットボトル2ℓの水1,000本をかき集めて、1本ずつですけど全会員に配ったんです。「たかが1本されど1本命の水」として3日後位には配ったかな、大変でした。

福島：中富地区は、この地区まで流れて、そうかと思えばこちらは断水するといった状況でした。みんなで心配して水を確保しました。

飯嶋：杉谷では井戸が有るところも結構ありますが、水道水は使えたはずですよ。停電だけど水道は出たんですね。ただうちはオール電化なので、カセットコンロで

対応しました。ストーブも灯油のを 1 個買おうかなと思ってます。

刈込：自宅では何かあったときのために、石油ストーブを用意し、灯油をドラム缶で買ってます。

飯嶋：うちは風呂も電気なんで全く入れず、国道のパチンコ屋さんの銭湯に 1 日おきに通いました。

刈込：自宅には井戸があり、トイレや植木の水やりに使ってます。保健所の検査は通ってますが、ちょっと鉄分が多く飲み水としては…。

飯嶋：私は 2 日休んだんですけど、1 日目に会社に出ようとしたら車が混んじゃって。職場も「来なくていいよ」と言ってくれて休みました。

飯嶋：信号の向きも変わってるし、停電で信号機そのものが動かず、そこで渋滞して、国道に出ても戻るに戻れませんでした。あと、ガソリンスタンドが混んで、うちの車もガソリンがかなり乏しくて、途中でガス欠だとどうしようもないんです。それもあって仕事を休みました。

飯嶋：今は切らさないうちにちょこちょこ給油してます。自分はガソリン作ってるところに勤めててこれだから。

増田：スタンドもガソリン何ℓまでとかありましたよね。閉まってたけどガソリンが入ったってオープンしたところもあった。

福島：防災組織を作るときに、大和田は市が発電機を 2 台支給してくれました。発電機はいかがですか。

刈込：自治会では 2 台持ってます。それに加え災害時には燃料の確保も難しことからソーラーバッテリーも購入しました。

福島：市からの発電機の支給は 1 回でした。

刈込：多分そのときのものと思われる古い発電機が 1 台あります。



(3) コロナ禍の影響について
矢島：コロナ禍の影響はいかがでしょうか。

刈込：自治会のお祭り「納涼祭」、大宮神社の例大祭・節分祭は密が避けられないため中止としました。それ以外の防犯・防災・厚生関係などの活動、また役員会議は毎月 2 回実施しました。年度末と初めの会議は 100 人を超えるため、また生涯学習交流センターの利用人数の制限もあり、書面決議・報告にさせていただきました。

飯嶋：杉谷は、春日神社で合同でやる祭りが最初の 2020 年が休止で、それからはなんとか工夫してやったと思うんだけど、ちょっと記憶が定かじゃありません。最初の年はみんな中止っていうのが多かったですね。それからは周りの地域とも工夫して規模縮小とかでなんとかやった記憶があるんですが、部落の会合は全て中止です。連絡は部落が小さいので文書でしました。懇親会みたいなものは全

て中止でした。

矢島：「コロナでいろいろ変わってしまった」「伝統の継承が難しくなった」といったような話が他の各地でもありましたが、他にいかがでしたか。

刈込：お祭りのような文化的なものは中止しましたが、復活にあたっては特に問題はなかったと思います。強いてあげれば、祭り保存会の若駒の指導ですかね。代々先輩が指導していますが、コロナ期間に卒業していなくなってしまい困っていたことを聞きました。

福島：大和田もそうですが、コロナ禍の間にしめ縄を作る長老がだんだんやれなくなって、それを繋げる人がいなくなり、コロナ禍が終わった今もできない話があったんですけど、そういうのはいかがですか。

刈込：コロナ禍前に長持ちするものを購入し切り替えてあったため、その点では問題はなかったと思います。

飯嶋：うちはしめ縄は、コロナ禍前にやっぱり後継者がいない、いなくなるっていうことで、後継者を作って、その人たちが作ってます。

刈込：そういうものを継承していくことも大事だと思います。難しいかな？できる人はいると思いますが。

（４）防災について

矢島：防災の取り組みや地域の意識はいかがでしょう。

刈込：防災訓練は年２回「無事ですタオル」揭示訓練に絞って実施しています。より防災意識をもってもらうためです。揭示率の目標は９割ですが、現在は８割強です。消防団にもご協力いただいています。甚大な災害が起き、外から自衛隊・消防・警察などが来たとき、土地勘がなくてもタオルが上がっていれば大きな情報となり、救助が必要な方に早くたどり着けますからね。

飯嶋：杉谷は部落が小さいのと高齢化が進んでる状況で、特別な取組はしてないのが実態です。ただ自治会長としては、やはり大きな災害のときなどには、高齢者には声をかけるということを考えています。

刈込：うちの方はソーラー式蓄電池を購入するお宅が増えています。高価ですが、これも防災意識が上がってきている証しかと。女性でも取り扱いが簡単にできますし。エンジン式発電機だと燃料確保や取扱いも難しいし、重く、うるさいこともあると思います。防災訓練時に防災関係の会社に依頼し展示販売をしており、その効果も出てきているかと考えています。いざというとき、自治会員以外の方への対応が大きな課題です。

飯嶋：その辺は難しいね。自治会は任意ですから。だけど災害が起こったらそうも言ってもらえないですからね。要救助者がいれば当然助けるっていうのが。

刈込：「無事ですタオル」は災害時の初動の安否確認ということでは効果は大きいと思います。市を挙げて導入していただければと常々思っています。

増田：タオルはこの１０年よりも前からやっていたことでしょうか。

刈込：6年です。近隣では、坂田地区が1番早いんですよ。僕は防犯協会に入ってまして、そのとき、坂田の元自治会長をしていた方から話を聞き、自治会長になるとき取り入れたんです。タオルを配って「これから訓練をします」というときに台風15号が来たんです。そのときはまだ、実施方法を地域の方々に周知できてなかったんで、もうちょっと早く取り入れていればと悔しい思いをしました。

福島：先ほどの自治会員以外の方の考え方はむずかしいですね。

刈込：当然、自治会員が優先です。ただ、人道的立場で言われると…。

（５）その他10年間の地域の変化

矢島：台風やコロナ以外に、ここ10年での地域の変化はいかがでしょうか。

刈込：空き家が増えました。高齢化社会で仕方ないのかなと思います。

飯嶋：うちは自治会加入100%ですけど高齢化で役員が非常に難しくなってます。17軒で幸い空き家はないですけど、これからは出てくるのかな。なにかあっても17軒なんであそこは何人で住んでるとかは全部わかり、結束力は強いんですが、これからは動けない人たちが出てくるのかなとも思います。

刈込：現在は班員名簿をとっても、詐欺などいろいろな問題もあり個人情報で年齢を記入されない方が多いです。たまたまお会いして年齢を伺ったとき、90歳を超えていてびっくりしたことがあります。

飯嶋：でも90歳でも元気なんだよね。

刈込：元気です。すごいなと思ってね。年齢も書いていただければ、自治会としても普段から気につけ、災害時に活用出来るんですが。

刈込：最初に言いましたが、この10年は大きな出来事があり、20年・30年に匹敵する印象深く記憶に残る時期だったと思います。

飯嶋：この台風で結構防災意識が、君津の人は高まったんじゃないですかね。大震災のときは大した被害なかったじゃないですか。でも、被害がやっぱりあると、防災意識も高くなりますよね。

飯嶋：うちの田舎は県内の旭市、津波でかなり防災意識が高くなってますね。

刈込：防災意識は高くなってきていると思いますが、もっともっと高めていかなければと思っています。南海トラフ地震です。「半割れ」というんですが、特に紀伊半島から九州にかけて懸念されています。しかし西側で起きた場合、東側でも同等の地震が起きる可能性が高いですからね。対岸の火事的に見ていると大変なことになると思います。それは「油断」です。

増田：南海トラフへの意識を高める点で、自治会での動きなどがありますか。

刈込：特定の災害への意識を高めることはしてません。今は、風水害を含め災害発生時に共通した地域住民のいち早い安否確認のみです。各家庭での家屋の補強や備蓄などは大前提としていますから。



福島：今日は新たなお話が聞けて、本当にこうして情報交換できたのが良かったと思います。今後ともこのような機会が大切です。公民館もこれからまたこのような機会を考えてくれると思います。貴重なお話を本当にありがとうございました。

第3節 インタビュー第3回目

日 時 令和6年12月5日 18:00～20:00

参加者 井祐 努さん（高坂自治会長） 岩崎 啓さん（貞元自治会長）
高橋 泉さん（新御堂自治会長） 佐々木 裕之さん（台自治会長）
鮎川 裕子さん・金井 淳一さん（中富北自治会長・副自治会長）
榎本 護さん（中野自治会長）

記念誌部会 福島 義人（部会長） 齋藤 みどり（副部会長）
船田 兼司（記録）

公民館 布施 利之 矢島 堯

（1）自己紹介

齋藤：副部会長の齋藤みどりです。陽光台に住んでいます。50周年のときも記念誌編集に携わりました。台風災害のとき、娘から「お母さん LINE じゃないと連絡とれなくて困る」と言われて、ガラケーからスマホに変わったということがありました。よろしくお願いします。



船田：記録係の船田です。みなさんの経験をまとめていきたいと
思います。子どもが小学校に上がるとき、妻の実家の近くにと
いうことで中野に引っ越して20年経ちます。今日はよろしくお
願いします。

榎本：中野自治会の榎本です。自治会長は4年前、民生委員は5
年前になりました。それ以前は、中野で「まてぼの会」に入っ
ていました。台風15号は君津に大変な影響と爪痕を残したと
思います。新しい災害に対する対応がいちばんの関心ごとで、
暮らしやすい君津市を願っていますし、協力したいと思っています。



佐々木：台自治会の佐々木です。釜石出身で昭和56年に君津に
きました。妻も北海道出身で、右も左もわからない中で子ども
が生まれ、地域で支えられたことへの恩返しと思っています。
3.11に私の故郷が地震に見舞われ1週間、3週間、1ヶ月、3
ヶ月後と足を運ぶ中、地域の助け合いを実感しました。
6年間自治会長で今期退きますが、しっかり次世代に市民活
動、地域活動を伝えたいと思います。



井祐：高坂自治会の井祐です。自治会長は10年目です。世帯数は
戸建てが約50軒、アパートが約30軒。合わせて80軒程です。
戸建ての方はほとんど顔見知りで、台風の時、副会長と端から
端まで歩いてチェックしました。この10年は令和元年の台風と
コロナ。その前の印象がそれで吹っ飛んじゃっていますから。



鮎川：中富北自治会の鮎川です。富津市出身で結婚して川崎に4年、横須賀に16年位いて、6年位前に中富北に引っ越して参りました。まだ6年半で地域をよくわからないまま自治会長になり、長く住まわれている副会長の金井さんにも来ていただきました。この参加にあたり、長年住む方に少しお話を聞いてきました。



金井：副会長の金井です。富津出身で君津市民になったのは26年前、結婚と同時で大和田社宅のD3棟にいました。子どもが小学校に上がる時中富北に家を持ちました。台風15号の2週間前に外壁とウッドデッキを200万円で修繕し、台風でさらに100万円かかりました。我ながらローンをよく払ったと思います。



高橋：新御堂自治会の高橋です。三舟山と小香の境で田んぼと山の地域ですけど、この10年は野生動物の被害が大変です。大学で家を出ましたが、40歳位で両親が高齢のため新御堂に戻りました。地元はみんな知っている方で、帰ってきてもブランクがない感じです。郡の杜がひらけ、少子化の中で私が通っていた小学校の生徒数は増えている状況です。

岩寄：貞元自治会の岩寄です。役員はあと4ヶ月で終わりますが完全燃焼で取組んでいます。台風は7日ほど停電で残暑が厳しく本当に耐えられないと感じました。コロナ禍で行事も一斉に中止し、コロナ禍明けに洗い出して再開した行事はだいぶ減りました。コロナ禍は大変でしたが、昔からあって減らすことが難しい行事を見直せたことはメリットと感じています。防災会も令和元年に設立しましたが、コロナ禍で活動できず、今年中に行う予定です。



（2）台風の被害について

矢島：台風による家屋の被害状況についてお伺いします。

岩寄：地形的なこともあるんでしょうけど、ひどいところとそうでないところの差があるんです。風の通り道ではほとんどの屋根に被害が出まして、ブルーシートで雨風しのいでいました。瓦屋さんが手配できず、年越しでもその光景が見られました。自宅は年内ギリギリで屋根瓦や周りの雨戸も直せました。

高橋：家屋の被害は、そんな多くなかったですね。一部瓦が飛んだとかってというのがあったんですけど、あとはトタンが結構やられたのが多かった。

鮎川：建物は大きな被害が出ていません。聞いた話だと、瓦が他のうちの窓などにあたったとか、車庫の屋根が飛んだ家もあります。台風後、瓦の入手が困難で、ブルーシートもなかなか手に入らない状況がありました。

金井：カーポートの屋根の一部が飛んだお宅が数軒ありました。自宅の鉄製の物置の屋根が飛びました。子どもとブルーシートをもらいに行った記憶があります。

井祐：瓦が飛んだ家が1軒です。普段住んでないので片付けはボランティアでしてもらったようです。大通りに面した家は風通しが良かったせいかアルミフェンスが壊れた家が3軒です。作ったばかりの箇所が壊れ、木の古い塀は逆に壊れていません。瓦が浮いた家は4～5軒でした。窓ガラスが割れた家はなかったです。

佐々木：生活に困る大きな損傷はあんまりなかったですね。瓦やカーポートが飛んだとかはありました。あとは空き家のフェンスがバタバタしてて、「飛んだら危ないね」と皆さんで協力して処理したというぐらいです。

榎本：自宅の母屋の棟瓦と物置の棟瓦が壊れました。母屋の棟が壊れたのは初めてで、業者も混んで来てもらえず、市役所でもらったブルーシートも剥がれて困りました。そんな矢先に若いお兄さんが「瓦直しますか」と来てくれ、知らない人で不安で迷いましたがお願いしました。結果的には丁寧に直してくれ、保険も出たのでしのげました。70年生きていて一番強い風で、一番被害を受けました。

矢島：停電の状況はいかがでしたか。

岩寄：7日間程だったと思います。当時発電機を持ってなく、冷蔵庫に氷を入れて極力開けないようにしていました。32度の残暑が厳しかったですね。ペットボトルの水の備蓄がありましたが、断水はしなかったですね。

高橋：停電は4日ぐらいでしたが、うちだけちょっと離れているので2週間かかりました。電柱が倒れ、電気が通ったのは9月23日でした。高齢者施設も停電で亡くなった方がいらっしゃいました。今は非常電源とか用意されてるようですが、そのときはうちの母親も世話になっていて、ちょっと心配しました。

鮎川：停電は2日程でしたが携帯が通じず、父が鴨川の病院に入院していたんですが鴨川も被害がひどく病院に全然繋がらないんです。翌日行こうとしたら道路が倒木で引き返しました。ずっと連絡が取れず、友人が住む横須賀からなら繋がるかもと、横須賀まで行って電話したらつながり、やっと無事が確認できたんです。

金井：一番困ったのは停電でお風呂もトイレも使えませんでした。お風呂はしょうがないとしてもトイレは皆さんと知恵を出して何とかしたいと思いますね。

井祐：停電はなかったですが、2～3日水が出なくてトイレとお風呂が使えませんでした。個人的には太陽光発電と蓄電池を持っていたので問題なく過ごせたんですけど、ご近所は車で涼んでいる方がいましたね。千葉県は災害がなさすぎるのが逆に怖く、阪神や熊本の地震もあったので用意していたんですけど、こんな形で災害対策が役立つとは思いませんでした。

佐々木：停電は3日から5日ですか。同じ台でも電気が来たところと来ないところがあって、隣は来ているのになんでうちは来ないといった問い合わせが毎日のようがありました。ソーラーパネルや蓄電池の家は電気が点いていて、携帯の充電させてもらえないか自治会を通じて言ってくれという問い合わせもありました。個人的にはボーイスカウトをしているので特に困ることはありませんでした。

榎本：電気の復旧は割と早かったです。でも信号機がつかなくて交差点に入るのに勇気がいるんだよね。木更津の氷屋さんに氷を買いに行きました。水道は出て、うちはプロパンガスなので煮炊きができ、ある意味不便な方もいいと感じました。便利すぎてオール電化にした仲間はどうしてるか心配でしたね。

岩寄：信号機は皆さんが譲り合いをしまして、事故は全然なかったと思います。お互い困っているもの同士だったから協力できたのかもしれないですね。素晴らしい。

矢島：断水はどうでしたか。

高橋：高台なのでポンプで加圧しないとうちまで上がってこないんで、停電と同じ期間は水道が使いませんでした。ただ、近くに湧水があり、そこで食器を洗ったりしていました。結構水が出ているところがあるんです。飲むには抵抗があるけど、何か使うにはよかったですね。

鮎川：断水はなかったです。主人の実家が貞元で、何ヶ所か水が湧いているところがあるので駄目だったらそこを使おうと話していました。地震だと地盤がずれてその水も出なくなってしまうかなと少し心配です。

井祐：断水が停電より長かった記憶があるんですけど、日数は陽光台とほぼ一緒だと思います。

佐々木：台も断水の記憶はあまりないですね。

高橋：写真にもありましたけど、倒木で車が出せませんでした。近所の人みんなで片付けてくれ、その日のうちに下まで降りられるようにしてくれてとても助かりました。自衛隊のお風呂も助けられましたね。2週間停電したんで、その前は「夢の郷」でお風呂に入れてくれたんです。「どうぞ」っていう感じで使わせてもらいました。

金井：中富北は小糸川の近くの瓦が飛んだという被害があったんだけど、幸い被害は少なかったかなと思います。

井祐：停電したときに長い間並んでガソリンを入れた記憶があります。リッター制限もあったんですよ。

佐々木：当時独り暮らしや要支援者が18世帯で、「困ってることはありますか」と声をかけて非常に感謝されました。頼れる人がいるという安心感は与えられたかなと思います。3.11のとき実家に行き、3時間並んで3ℓしか入れられなかった記憶があるので、以降必ずガソリンは半分になる前に満タンにしています。

榎本：父が大工で生前は全部直してくれたんですけど、台風の時、小糸で大工をしている親戚が心配して来てくれました。屋根にブルーシートをしてくれて。「やっぱりお互いに助け合わなきゃ生きていけないな」って感じました。過度な干渉はよくないですけど、普段も隣近所お互いにそうやって暮らしていくのが幸せかな。

鮎川：雨風が一旦落ち着いたときに社会福祉協議会の役員が小糸川を見に行ってくれたんだそうです。そしたら警戒水位ギリギリだったっておっしゃってました。

榎本：仮に溢れてもどうしようもないね。何か手を打てるならやるけど、何もできないから避難ということなんだろうかな。

矢島：当時の記憶だと「台風がくるよ」ぐらいの感覚で、いつも通り台風が来て「1日過ぎればどっか行っちゃうんだろうな」ぐらいの感覚でしたかね。当時のマスコミの報道もそんなに強くなかった印象があります。

榎本：台風だけなら多少の被害だけかもしれないけど、やっぱり停電ですね。あんなことはなかった。15号の勢力が弱まらないまま来て、すごい台風だとテレビでも言うけど、実際どの位被害が出るかって想像つかないんですよ。45メートルの風といっても別に大丈夫だろうと思っていたら、そうじゃなかった。

(3) コロナ禍の影響について

矢島：コロナ禍の影響はいかがでしょうか。

高橋：自治会が取り組んだことは特にはないんですが、自治会長を決める会議以外の行事が全部中止でした。祭りものぼり立てができなくて、新年会も中止でした。新年会は今もやらないままです。娘の学校がオンライン授業でしたけど、親が休めず子どもだけ休みになると、学童も行けず、共働きの世帯は困ったと思います。

鮎川：総会や役員会は書面でした。自治会ではないですが、私が働いていたホテルが療養者施設になったんです。ホールや食堂の荷物を全部上にあげ、1階が事務所、2階、3階は医療関係詰所、その上が患者さんでした。1年位、施設として続けました。最初の頃ってよくわからなかったじゃないですか。周囲に人の集まるお店もあって多分ドキドキだったと思います。全館消毒して、やっと再開しましたが、計り知れない影響が出るんだなと思いました。

金井：自治会以外の活動も制限されたと思います。私は「素敵な珈琲時間」というおいしいコーヒーを淹れる公民館サークルの会長をしてるんですけど、コロナ1年目は活動できなくて、2年目は短時間で距離をおいてならいいという状況でした。一人ひとりの行動がものすごく制限されて大変だと感じましたね。

井祐：総会や大きな集まりは書面開催にしました。ただ、健康体操は6人ぐらいでするので、距離をとってマスクして実施しました。ほかでは中止のところが多かったと思いますが、うちは規模が小さかったのも、皆さん家に閉じこもってるのも大変だろうと体操を実施しました。少しはストレス解消になったかと思います。

佐々木：どこの家の人が罹患したとかいう風評被害が立ったので、逆に、11ある組長と役員の会議を3密回避して行い、議事録を回覧して風評被害を払拭する活動をしました。もちろん、総会とかは全部書面です。でも、毎月の会議はしっかりやって、コロナの対策とか、市からくる情報を流していこうという活動をしました。

榎本：会議はマスクと消毒を徹底し、書面で済む会合は書面にしました。祭りもできず、やっと戻り始めていますがコロナ前より規模が小さくなりました。もともと高齢化で規模を小さくしようという中のコロナで、どう新しい形でお祭りを戻すかみんなで知恵を出し合い、この夏、小じんまりでも賑やかな楽しいお祭りができました。久々に50、60名で防災訓練もできました。5年経ってやっとコロナを克服できたのかなという気持ちです。

(4) 防災について

高橋：女性や高齢の独り住まいが結構あるので、何かあったときに備えて自治会長が年に何回か見に行くようにしています。顔が見える関係性だからいきなり行っても嫌がられないんで、ちょっと話し相手になりながら近況を把握しています。来てもらった方も「ありがとう」って。まあ田舎だから出来るんですよ。

鮎川：正直言うと防災は具体的にはあまりしてなく、年1回、防災倉庫の点検ぐらいです。でも、今何があるかわからず、小糸川も背負ってるので、もう少し危機感を持って訓練しようと3役で話しています。昨年度は消火訓練が天候の関係でできなくて。「無事ですタオル」とか、他の自治会も参考にしながらと思っています。

井祐：コロナ前は防災器具を使った訓練とかいろいろしていましたが、コロナで中断しました。うちも高齢化が進んで、訓練はちょっと難しい状況です。でも「無事

ですタオル」は来年度から導入する予定で、それが出れば、「あ、ここは無事だな」というのが外から見ただけでわかりますから、訓練もやっていこうかなと思っています。

佐々木：市から支給された発電機とかポンプを必ず防災月間の9月にテストしてます。3.11を体験したことで、被災されたところの新聞を取り寄せ、議事録に釜石や三陸の復興の状況や体験談とかを載せて回覧し、防災意識を高めています。避難経路は、今はなくなりましたが久保保育園が避難場所だったもので、その経路を、夜も防犯灯が大丈夫かとかパトロールしています。

榎本：消火訓練やAED体験を今年復活させ、先日50名で実施しました。小糸川の氾濫は難しく、全員が避難所に行けるわけもなく、動けないお年寄りもいます。民生委員と自治会役員だけでは難しい。隣近所で助けあう行動が一番で、それがあって初めて街のいろんな計画が活きると思うんですが、隣と話したことがない人も増えてます。なんとか解決したいと思い、公のサポートもいただきながら、意思疎通を図っていきたいと思います。

（５）その他10年間の地域の変化

高橋：小さな自治会でみんなよく知っているんですが、独り、二人住まいが増え、親戚などの緊急連絡先の了解をもらって自治会で把握しています。都会だと難しいですけど。この10年、耕作放棄地がかなり増えました。今年コミセンの賀詞交歓会が復活しましたが、高齢で大変だという声もあります。うちも世帯数が少なく、4年ごとに会長が回ってきて役員が何年も続く。厳しいですね。

鮎川：今年、班で3役を出すことになったんですが、子どものことや仕事でできない人が多く、自治会に入るメリットがないと何軒も辞め、残った5人で回しています。新旧住民の意識の違いとか、自治会に目に見えたメリットがないことなどを思うんですが、協力金なども助け合いの趣旨を分かっていただけで、ちょっと悩んでいます。この先も減ってしまうのが怖いです。お独りやご高齢、日中いない世帯も多く、防犯も考えなきゃと思います。

金井：うちも新興住宅地なので、若い方や独り住まいの自治会への意識が薄いかなという点がありますね。例えば消防助成金も理解してもらったつもりですけど、市からも、目的とか理解してもらえ案内などがあれば違うと思いますよね。

井祐：うちも世帯が少なく、私が十年も会長をせざるを得なく、来年やっと思ひますが他の役員も高齢です。若い世帯は5軒で自治会加入は3軒。アパートは外国の方が半分ぐらいで、ゴミの問題が起きてました。高齢世帯でゴミ出しとか身の周りのことができないという点も課題です。自治会も助けますけど、それで当然というのも違うと思いますしね。社会福祉協議会や民間で有料で出来る形にもなるのかなと思います。

矢島：自治会の問題が大きい状況ですね。

井祐：一時期、「陽光台さんや久保さんと合併しては」という話もあったんですが、「とりあえず私たちが頑張っています」ということで、十数年頑張って前の会長さんから続けています。どこまで持つかわかりませんが。

佐々木：役員を輪番制にするとやめる人が一気に出ますしね。市から自治会に要避難支援者の課題とか投げられますが、市も自治会加入をあげようと考えているか疑

問です。ゴミの問題も環境衛生課とも何度も話しています。一度「会員以外のゴミ捨ては遠慮願う」って張り紙したら、すぐ苦情の電話が入り、私も、管理する側は一生懸命だけど会員でない人は「ゴミを捨てるだけってどうなんですか」と話をしています。まだやり取りしてますけど。

矢島：会員でない方との対話もされてるんですね。

佐々木：周西小の新入生を地域で育てましょと、4月にお祝いを持って行き、家族写真を自治会回覧で紹介することを私が会長になってから毎年しています。写真を載せないでという家は1軒もなく、「待ってました」ってランドセル背負って出てきたりして。今年7月はバーベキュー大会をして120人位集まったんです。スリランカやパキスタンの方もいるんで、その方も混ぜて。

矢島：新しい挑戦に頑張ってるんですね。

佐々木：新しく引っ越してきた方に丁寧に説明するため自治会の手引きも作ってます。募金や消防協力金も丁寧に説明して議事録でも回覧しています。最近も何軒か入られたんで、続けていこうと思います。私の故郷は地震、津波がありますが、君津はそれがないんで、防災意識が希薄かなと思い、そういうところを助け合わなきゃと総会とかで話をします。

榎本：中野はいいことに青年団が残っていて。それがなくなったら、地域の暮らしが想像できないですね。自治会の役員も、青年団の付き合いから基本的に考えるんです。もちろん青年団に入っていない人たちにもお願いすることは多々あるんですが、長年の付き合いで受けていただけるんで、今のところいい方向に機能しているかなと思います。ただ、最近、青年団に入る数も減ってきています。

矢島：地域の団体が力を発揮してるんですね。

榎本：小学校のPTAが昔は盛んで、PTAで知り合った人たちが「まてぼの会」っていうんですけど青年団に入ってくれたんです。自治会の立場で言うと、同じ年頃の大人の方々が、子どもさんを通じてお互い知り合いになって、いろいろと問題を出し合ったり、学校の課題にも取り組んでいったりする活動はやっぱり大事だなと思うんですね。それがあったならば、地域の活動もっと活発になると思うんですね。

矢島：地域の知り合いを増やすということですね。

榎本：佐々木さんのお話はすごいですよね。そういう活動でお互い知り合いになって災害に強くなりますよ。自分の知り合った人が消防団となると「消防団、大変だな」ってわかりますし。知り合いになる機会を、お祭りでもなんでもいいから、地域に復活させるのがいいなと思います。高齢者が増えたら高齢者のグループを合体させて、自分たちのさらに先輩を面倒見ましょって、そういう雰囲気の班編成なんかできるといいなと思います。



佐々木：種まきですよ。盆踊りもコロナ前にやめたら反対があって、踊りだけでなく、かくし芸大会にしたんです。踊り、カラオケ、太鼓などをにわか舞台でやっ

たら「あの人舞踊やってたんだ」とか話が進むんです。外国の方も一緒に住むんだから和を持って自治会に入ってもらおうと話して、バーベキューに誘いました。肉は食べられるか、焼きそばはどうかとか、ドラム缶でコンロ作ったりとか楽しんだんです。成果はすぐには出ませんが、種まきの数年後に楽しいから自治会に入ろうという雰囲気が出ればいいなと思います。

榎本：それと同じなんですよ。中野はお祭りを通して我々年寄りと PTA の親子がいっぱい来ますから、反省会でずいぶん盛り上がったみたいですよ。それが重なっていくと、地域の力、結びつきが強くなりますよね。でそれが結局、災害に強い地域なんじゃないかなという気がするんですよ。それが一番大事なのかな。

佐々木：3.11 の被災地で自分も 1 週間動いたときに、みんなが明るくてびっくりしたんですよ。自分の家族とか家がなくなって、体育館とか何十人も生活してるんだけど、「今日夕方バーベキューするから食べに来い」っていうんですね。漁師町なんでアワビとかウニとかホタテが冷凍庫に入れたんだけど、電気もないんで悪くなるから、みんな食べようと。そういう同士だから、みんなで助け合ってる姿を見たときにね、これだなと思いましたよね。

矢島：語り尽くせないところですが、時間ですので部会長からお願いします。



福島：貴重な体験、提案をいただき、もっと工夫せないかなという面をつくづく感じました。私も PTA や地域の方と一緒にいろんなことをして、飲み会もしました。そこでいろんな話ことができましたね。我々新住民は、ちょっとひげ目を感じてたんですけど、そういうつながりが大事ですよ。こういう情報交換が本当に大事だなとつくづく感じます。本当に今日はありがとうございました。

第4節 インタビュー第4回目

この節は、インタビュー当日にご都合がつかなかったみなさんに、別日程での聞き取りにご協力いただいた内容をまとめたものである。なお、福村陽光台自治会長には書面でまとめていただいたため、そのまま紹介させていただく。

ご協力

鈴木 芳昭さん（上湯江自治会長）
野瀬 智秀さん（上湯江市場自治会長）（代理：ご家族）
齋藤 暁 さん（郡の杜自治会長）
和田 彰 さん（下湯江自治会長）
鮎川 一幸さん（八幡自治会長）
福村 英俊さん（陽光台自治会長）

（1）台風の被害について

鈴木：倒木があったり、農家ではハウスが倒れたりして、ほとんど立て直しになっていました。一部地域では 2 週間ほど停電になっていました。

野瀬：自宅などは周辺を含めて大きな被害はありませんでした。前にあるイチゴハウスが大きく破損していました。

齋藤：当時は自治会長ではなかったので詳しい話は分かりませんが、カーポートが飛んだり、停電が起きたりして、私の家も停電にあっていました。

和田：大きな被害はなかったと思います。停電の復旧も比較的早かったように思います。

鮎川：春に引っ越してきたばかりで、まだ1年弱のためよくわからないというのが正直なところです。

福村：（書面にて）

・家屋の被害状況

具体的な数字では把握していないが、自治会内を見廻ると、屋根瓦や屋根、雨戸、窓ガラスなどが破損している家屋があり、当面の雨漏り防止のため市役所にブルーシートを受け取りに行ったが、他からもたくさん来ており、2セットしか調達できなかった。やはり、緊急の場合のブルーシートは自治会を含めて、多数保管する必要がある。

自治会が各戸に配布している、「無事です、タオル」が出ている家が見られたが、強風でそれところでは無かったようで、出ている家は少なかった。

・停電の状況

陽光台の電源は約1週間程度続き、夏場であったため冷蔵庫や冷凍庫内の食料品が使えなくなり大変困った。食料を調達するため、木更津など電気が回復した場所のスーパーなどを、知り合いの聞き伝えで探して購入した。

また、スマホなどの充電用に自治会館に整備している発電機で対応しようとしたが、燃料切れで対処できなくなり、日頃から試運転など準備をしておく必要の大切さを痛感した。

そのため、その直後から現在まで、月1回の幹事（班長）会の前に、試運転と燃料補充の状況を把握している。

・断水の状況

断水も停電と連動して、約1週間程度続き、不安が高まった。まず、飲み水は開いているスーパーなどで2リットル入りの天然水を購入したり、房総地区以外に住む親戚などから、宅急便で送って貰ったりした。貞元地区などにある上総掘りの井戸水や、木更津市からも車で水を配布に来てくれて助かった。また、近くの湧き水、川水などをプラスチック容器にいれて持ち帰り対応した。

・当時の印象的な出来事

1週間程度の停電で、水や食料など、基本的な生活インフラが根本的にダメになることを実体験した。情報の収集は携帯ラジオしかなく、懐中電灯の明かりで暮らす夜を過ごす不安など、思い出すにつけ現代生活における電気の有難さを痛感した次第である。国策としても、発電、送電など、電気のインフラは最重点とすべきである。

（2）コロナ禍の影響について

鈴木：総会が書面開催になり、飲み会などは中止になりました。しかし、草刈りなどの活動は、人が集まりすぎないように注意しながら続けていました。

野瀬：正月行事や総会を簡略化するなど、なるべく人が会わないように心掛けました。この地区は高齢者が多いのでとても気をつかいました。

齋藤：対面の総会を中止して、書面開催などで対応していました。活動を自粛することで、感染拡大を防いでいました。

和田：自治会活動は顔を合わせることを避け、何も行事を行いませんでした。

祭りも令和元年は台風、令和2年からはコロナ禍となり、役員のみで1時間程度の神事のみ行っていました。今年久しぶりに祭囃子を含め、大きく実施することができました。

鮎川：これも引っ越してきたばかりでわからないといったところです。

福村：（書面にて）

・自治会の取り組みについて、

3密を避けるため、役員会、幹事（班長）を1丁目、2丁目に分割し、時間短縮に努め、議事内容も簡明化した。また、会議に防菌パネルなども導入した。

さらに、役員会でZOOM会議を導入、グループLineで連絡・調整、報告を広報誌「陽光台だより」で周知したりして工夫した。

・当時の印象的なできごと

3密をできるだけ避けるため、役員会でZOOM会議を導入、グループLineで連絡・調整などのデジタル化が進んだ。

「陽光台まつり」など行事が出来なくなり、予算の節約が進み、コロナ禍後、自治会館の男女別トイレ改修、コロナ禍数年でカビなど、不潔になっていた部屋の床をフローリング化改修などを行った。トイレとフローリング化は今後の防災対策にも役立てることが出来る。

（3）防災について

鈴木：倒木が課題で、地域の人が所有している部分は、お願いして切ってもらったりしていますが、それでも限界があります。

齋藤：防災倉庫に備蓄をしているのと、市が配布した看板などを公園に設置しています。

福村：（書面にて）

・現在実施している防災の取り組み

防災部を中心に、月1回、幹事会防災倉庫内の発電機の試運転、燃料の状況、貯蔵飲料水、救急箱の薬や機器の消費切れなどの確認を実施している。

さらに、市などが行う防止行事や講習会に参加。役員・幹事（班長）間の「緊急連絡網」の整備、「無事ですタオル」などを活用した試行を9月の防災月間に実施している。そして、その結果を集計して、「陽光台だより」や幹事会議事録などで会員に周知している。

また、防災上の取り組みの基本は地域の連帯であると考え、「陽光台まつり」「散乱ゴミ0作戦」など地域で取り組む事業に力を置いている。これらは陽光台で生まれ育つ、子ども達に地域に愛着と誇りも持たせるためでもある。

子ども達が核なり、「地域の老・成・青」の各年代の連携と協力が進むことは、甚大化する災害への対処でもあると思う。

（4）その他10年間の地域の変化

鈴木：若い人たちが自治会の活動にあまり顔を出してくれない状況があります。

地域の役員なども担い手がいなくなってきました。組織も、人の考え方も変わってきたのかもしれませんが。

野瀬：空き家が増えましたね。高齢化も進んでいます。独り暮らしもとても増えました。

齋藤：自治会員の減少がありましたが、令和6年度の今年は盛り返しました。住宅が増えて、空き地が少なくなっています。

和田：独り暮らしの方、独身の世帯が増えましたね。親御さんが亡くなられて独り暮らしになってしまうという方が多いですね。

鮎川：やはり、引っ越してきたばかりのためよくわからないというのが正直なところです。

福村：（書面にて）

・印象的な出来事

何と言っても、少子高齢化が顕著に進んでいる。このところ480戸を超していた会員が現在450戸となっている。その理由は高齢化で施設入居や子どもの家に引き取られたり独り住いの方が亡くなったりである。

さらに、子どもの数が減少している。現在、陽光台に居住する小学生が47名でこの10年で半数近くになっているようである。

特に、1丁目に空き家が多く目立ってきている。君津市建築課でも空き家活用「アキカツ」のモデル地区の一例として陽光台を取り上げて貰っているが、これらを積極的に進めて、子育て世代との世代交代を進めていきたいものである。

最後に水道山からの獣害問題である。数か月前にイノシシが現れ、陽光台中央公園に罠を仕掛けるとの報告が市から成された。この辺りは2丁目、3丁目の学童の通学道になっており、PTA、自治会などで見守りを行った経緯がある。

以前にもハクビシンが天井裏に入り込んだり、アライグマを見た人が居たり、捨て猫が見られたりしている。確かに水道山は竹が頂上まで繁茂し、大変な状況になっている。

また、君津の中心部、東京湾、富士山が望め、陽光台で最もロケーションの良い水道山に隣接する「中央公園」は危険で使用不能になっている。

水道山は富士山、東京湾と首都圏が臨め、整備すれば君津の名所になると思う。

是非とも、君津100年の計として、水道山全山を公園化し、桜、花桃、モクレンなどを植えたりして、水道山の全部を花見の山とした整備をお願いしたいものである。